

2. 火山の概況

(平成16年10月14日～平成16年10月20日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では火口の高温状態が続いている。

浅間山では時々ごく小規模な噴火があった。火山活動度レベル(以下レベルと記載)は3。

伊豆大島では島内を震源とする有感地震が発生した。レベルは1。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山の御鉢の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

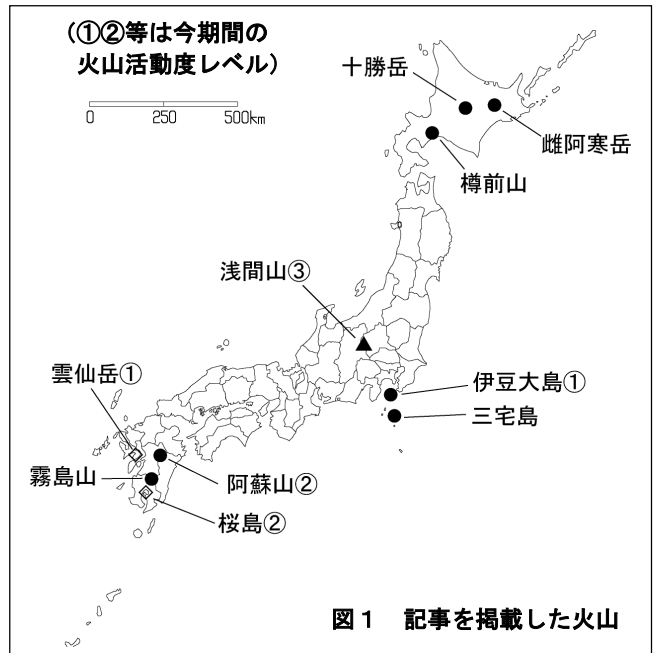


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	三宅島	伊豆大島	西之島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号											
43	10/14-10/20	③	▲	①	●	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●				●			
42	10/7-10/13	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	●	●	●	●	◆	◆	
41	9/30-10/6	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●				●	▲	▲	
40	9/23-9/29	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇				●				●	▲	▲	
39	9/16-9/22	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇				●			●	●			

注1 記号の意味

- ▲: 噴火した火山
- : 活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に变化があった火山
- ◆: 前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇: その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

期間中、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

期間中、62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

14～15 日に行った調査観測では、赤外放射温度計¹⁾による A 火口の最高温度は約 610℃ (前回 10 月 1 日の観測では約 600℃) , 熱伝対温度計¹⁾による B 噴気孔群の最高温度は約 430℃ (前回 10 月 1 日の観測では約 430℃) で、いずれも高温の状態が続いていた。

1) 赤外放射温度計は物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器であり、一方、熱伝対温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器である。前者は熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

▲ 浅間山 [噴火・地震・微動・火映] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、ごく小規模の噴火が4回発生した(16日12時06分、18日07時36分、18日10時17分及び19日14時46分)。そのうち、18日10時17分と19日の噴火では人には感じない程度のごく弱い空振(1パスカル未満)が観測され、19日の噴火では山頂南方の軽井沢測候所(火口の南約8km)と御代田町役場(同約10km)でごく少量の降灰が確認された。これらの噴火に伴う有色噴煙は、最高で火口縁上500mまで上がった。

振幅の小さい火山性地震の発生回数は1日あたり75～136回、火山性微動の発生回数は2～14回で、ともにやや多い状態であった。

16日未明には、国土交通省関東地方整備局利根川砂防事務所が設置した高感度カメラで確認できる程度のごく弱い火映現象がみられた。

地殻変動観測には特に顕著な変化はみられなかった。

● 伊豆大島 [地震] レベル1 (静穏な火山活動)

17日04時59分に島内を震源とする地震が発生し、伊豆大島元町で震度1を観測した。この地震の前後で、噴煙活動、地震活動等に特に変化はみられなかった。伊豆大島周辺を震源とする地震で、震度1以上を観測したのは今年7月2日以来である。

その他に、地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス・熱・地震]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、最高で火口縁上600mまで上がった。

14日に警視庁の協力により上空から行った観測では、白色の噴煙が連続的に噴出し、火口縁上1,000mまで上がっていた。また、二酸化硫黄を含む青白色ガスが南側に流下していた。火口内の詳しい様子は噴煙のため不明であったが、赤外カメラによる観測で火口内の最高温度は164℃であった(前回8月10日の観測では190℃)。同時に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量2,300～4,900トンで依然として多い状態であった。

振幅の小さいやや低周波の地震は1日あたり17～50回観測された。

● 阿蘇山 [熱・噴湯現象・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

15日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰白色に変わり(前期間の12日には灰緑色)、量は約4割に減少(前期間の12日には約5割)、表面温度の最高は71℃(前期間は74℃)で、火口壁の最高温度は136℃と依然高温であった(前期間は149℃)。湯だまりの中央、西及び南西側で弱い噴湯現象があった。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上300m(前期間400m)であった。

孤立型微動の発生回数は447回であった(前期間は561回)。また、継続時間の短い微動が時々発生した。地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。15日に時々噴気が監視カメラで観測され、その最高は火口縁上50mであった。

◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火は発生しなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第93号	14日 10:00	当日00時～15時もしくは前日15時～当日09時の活動状況（噴火はなし）。レベルは3。
	火山観測情報第94号	14日 16:00	
	火山観測情報第95号	15日 10:00	
	火山観測情報第96号	15日 16:00	
	火山観測情報第97号	16日 10:00	15日15時～16日09時の活動状況（噴火はなし、微弱な火映を観測）。レベルは3。
	火山観測情報第98号	16日 16:00	16日00時～15時の活動状況（12時06分にごく小規模な噴火発生）。レベルは3。
	火山観測情報第99号	17日 10:00	16日15時～17日09時の活動状況（噴火はなし、地震やや多い）。レベルは3。
	火山観測情報第100号	17日 16:00	17日00時～15時の活動状況（噴火はなし）。レベルは3。
	火山観測情報第101号	18日 10:00	17日15時～18日09時の活動状況（07時36分にごく小規模な噴火発生、地震やや多い）。レベルは3。
	火山観測情報第102号	18日 16:15	18日00時～15時の活動状況（10時17分にごく小規模な噴火発生）。レベルは3。
	火山観測情報第103号	19日 10:00	18日15時～19日09時の活動状況（噴火はなし、地震やや多い）。レベルは3。
	火山観測情報第104号	19日 16:00	19日00時～15時の活動状況（14時46分にごく小規模な噴火発生）。レベルは3。
	火山観測情報第105号	20日 10:00	19日15時～20日09時の活動状況（噴火はなし、地震やや多い）。レベルは3。
	火山観測情報第106号	20日 16:00	20日00時～15時の活動状況（噴火はなし）。レベルは3。
三宅島	火山観測情報第573号 ↓（1日2回発表）	14日 09:45 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第586号	20日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第50号	15日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（湯だまりの高温状態継続、噴湯現象あり、湯量約4割に減少）。レベルは2。